

読書のまち「しらかわ」 読書活動の充実に向けて

～読書フェスティバルの取組を通して～

白川町教育委員会



1 令和6年度 白川町読書教育の方針と重点

読書活動の充実に努め、豊かな感性・倫理観・幅広い思考力を培う

白川町では、各校における図書館運営によって、「読書に親しむこと」を目的とした指導が充実しており、各活動の意義について児童生徒だけでなく教員にも浸透しているといえる。また、児童生徒が主体的に図書館運営に携わり、図書館祭りといった特別な活動だけでなく、日常的に読書啓発活動に取り組んだり、子どもたち自身が読み聞かせを行ったりしている。これは、学校だけでなく町立図書館（以下、楽集館という）の司書や職員との連携による成果であるともいえる。一方で、学校内では読書に親しむ風土が醸成されているが、特にコロナ禍以降、学校外における読書活動に対しての意識の低さについては課題が残る。家庭への啓発だけでなく、町をあげての継続的な取組も必要であると考えます。

2 町の読書活動（学校外の取組）におけるこれまでの歩み

白川町では、学校外の読書活動については、コロナ禍前後における取組は下記のとおりである。

	活動の様子	活動内容	○成果と▲課題
1 元 ま だ の 取 組	読書サミット 	令和元年8月1日(木)←第9回 13:30～16:30 町民会館大研修室 ① 朗読劇(町内有志) ② 我が校図書館自慢 ③ ビブリオトーク ④ フリートーク	○多くの児童生徒が参加するため、活気がある。 ○地域の方は子どもの頑張りを微笑ましく思っている。 ▲内容が多岐にわたるため、教師の負担が大きい。
R 2、3、4年度はコロナウイルス感染症対策のため、「読書サミット」を開催しなかった。			
5 R 一 度 年	読書フェスティバル 	令和5年12月9日(土) 10:00～12:00 楽集館2階 ① 楽集館、読み聞かせ ② 落語&講演会 ③ おすすめ本コンクール表彰式 ④ フリートーク	○教育委員会主導で進めることで、できる限り、学校(教員)負担のかからないようにした。 ▲家庭までに読書活動の充実に図ることができなかった。

コロナ禍前の令和元年度までの取組は、大変充実したものとなっていた反面、当時の活動記録を読み返してみると、「児童生徒が『読書に親しんでいる』割合はまだ低い。やらされている読書から自ら進んで読書となるよう、本に親しむ時間・場所を確保するとともに、読書の意義について考えさせたり、意識を高めたりするなどの取組を考えていく。」という振り返りがなされるなど、主体性に弱さを感じる。さらに、この活動を実施するためには、教員は発表準備、教育委員会は関係機関（教育事務所、楽集館、地区公民館等）や各校との連絡調整、スクールバスにかかわる業務（搭乗確認や運航）の負担が非常にかかる現状があり、働き方改革の視点や継続的に取り組めるのかの視点から不安があるものであった。

令和5年度には、これまでの経緯を振り返り、新たに「読書フェスティバル」という名称に変え、内容も運営も新しく組み立てた。

3 これまでの取組を踏まえた令和6年度取組

令和6年度は、これまでの取組のよさを踏まえた上で、現状の白川町の実態（教師の負担軽減、児童生徒の日常の読書活動の充実等）に合ったものになるよう以下のように考えた。

【午前】

- ・「読書にかかわるいろいろな賞⁽¹⁾」の表彰式
- ・ビブリオトーク&フリートーク⁽²⁾

【昼休み】演奏会（本の読み聞かせを含む）

【午後】読み聞かせ講演会

- ・絵本作家のワークショップ



【作品展示の様子】



【会場内の様子】



【表彰された児童生徒】



【演奏と読み聞かせ】



【絵本作家によるワークショップ】

【工夫点】

- (1) 「読書にかかわるいろいろな賞」については、国語の教科書に掲載されている図書館と連携（関連）した学習内容での作品をそのまま応募作品とした。8割以上の児童生徒から作品応募があった。入賞作品については、当日の展示（楽集館）だけでなく、ふるさと祭り（町民会館）等でも展示した。
- (2) 本が好きな子同士が交流できる場「ビブリオトーク&フリートーク」を実施し、同世代の仲間の思いや考えに触れることができるようにした。



4 令和6年度読書フェスティバルの参観者の感想

- ・学校でも自分から本を読む人が少ないと思うので、このような活動を続けてほしいと思いました。（小中学生多数）
- ・今回初めての参加でしたが楽しかったです。子どもがもっと本好きになってくれると嬉しいです。（保護者）
- ・たくさんの子どもが表彰してもらえてよかったですと思います。白川町は読書活動に力を入れていると思うので、このような活動はとても良いと思いました。（保護者）
- ・本が好きで、小さい時から身近に本がある生活ができていて、小学校でも毎日本を借りてこれ、親しみをもっているのがありがたいです。（保護者）
- ・こんなに多くの子どもたちが受賞されて、嬉しい思いをされたことと思います。こういう機会をきっかけに、本に触れる子もいると思うので、きっかけは大切だと思います。（学校・保育園関係）

5 令和7年度に向けて

来年度は、本年度の実践に加え、白川町では今後の学校統合問題等も踏まえ、より活動が充実するように、「小中学生による読み聞かせ」「図書館の廃棄本の無料配付」の活動を行ったり、児童生徒のアイデアを活かしたりすることで、今まで以上に、興味関心を高め、豊かな感性・倫理観・幅広い思考力を育てることができるような「読書フェスティバル」になるようにしていきたいと考える。